

「激変する北東アジア地域情勢に関する地政経済学的研究」 研究プロジェクト報告

1. 目的・活動内容

昨今の北東アジア地域では、朝鮮半島における北朝鮮の閉鎖・強硬態度の転換と南北融和ムードの出現と幻滅、韓国における保守政権から社民政権への政権交代と日本に対する批判的な政治的雰囲気形成、ロシアにおけるプーチン長期体制の構築と極東アジア地域開発への注力、中国における「AIIB 創設」や「一帯一路」戦略の推進を通じた巨大国パワーの顕示と新しい対外戦略の展開、およびそれに伴う米中覇権争いの勃発など、さまざまな地政経済学的変化が見られる。

本研究では、これらの日本を取り巻く北東アジア周辺地域における政治、経済、社会、国際情勢などにおける変化に関する情報収集と実態分析、および地政経済学的視点（地理的、外交・軍事的、政治的、経済的側面の密接不可分の関係と諸関係の帰結に対する理解）に基づく新しい北東アジア地域社会経済（Political Economy）の分析枠組みを模索している。

研究計画期間（3年間）の第二年度にあたる本年度では、第一に、初年度に続いて北東アジア地域における新しい地政的、経済的变化を分析するための理論的枠組みを構築しつつ、関連する資料の収集を行った。第二に、国内外の研究機関に所属する関連領域の研究者らを招へいし、研究会等を開催し、知見と意見の交換を行いながら国際共同研究体制の構築を行う、と計画した。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、理論的研究と文献資料の収集は進んだが、国内調査や海外・学外の研究者を招へいして行う予定であった研究会は全く開催できなかった。

本年度に予定していたが、新型コロナウイルスの影響によって中止となった研究会については、来年度の研究計画に組み込み、講演者と日程の再調整を行った上実施する予定である。また、依然として対面の研究会が開催困難な場合は、オンラインでの開催も積極的に検討する。

担当：巖成男（本学経済学部教授）